

新しい NEW CROWN の 刊行に寄せて

NEW CROWN 代表著者 工藤 洋路 (玉川大学)



昔も今も “NEW” CROWN

NEW CROWN は、今から50年近く前の昭和53年(1978年)に初版が刊行され、その後、何度も改訂を重ねてきました。改訂のたびに、新しい題材を取り入れたり、単元の構成を変えたり、言語活動を充実させたりするなどして、その時代に合った教科書、あるいは時代の少し先を行く教科書を目指して作られてきました。とはいえ、中学生が学ぶものとして価値があるものであれば、学習指導要領が変わっても、また、生徒の学習形態が変わっても、決して教科書から消えることはありませんでした。

NEW CROWN は、常に新しいことに挑戦し、追い続けることを厭わない教科書でもあります。それは一つに、編纂に携わる先生たちが、これからの英語教育のあるべき姿を、常に前向きに、そして具体的に思い描いているからです。もう一つは、NEW CROWN という教科書の名前にあります。“NEW” という名前を授けられたからこそ、この教科書は、何か新しいものを備えている必要があります。改訂のたびに、意識的に、そして無意識的に、この名前の持つ意味が反映された教科書づくりが行われています。

生成AIなどのテクノロジーが発達した現代においても、教科書をデザインするのは、AIではなく「人」なのです。令和7年度版NEW CROWN も、幾度となく議論を重ね、何度も英文を書き直し、細かな修正を施しながら、ここに完成しました。この教科書を手にする先生や生徒たちに、作り手の思いとともに、書名にある“NEW”の意味を感じ取ってもらえると嬉しく思います。

題材のNEW CROWN

新しいNEW CROWN を編纂するにあたって、時間をかけて議論したものの中に題材があります。歴史的にNEW CROWN では、取り上げる題材を、英語の技能を育むことと同じ程度に重視してきました。そのため、どの時代のNEW CROWN においても、中学生が自分の世界を広げ、多様性を認め合い、物事を深く考えるための題材を提供しています。代表的なものの一つとして、キング牧師の『I Have a Dream』があります。今回の改訂では、この題材の存続について様々な意見が出ました。結論から言えば、次のような理由から、Lesson(主単元)ではなく、Reading Lesson(読み物)として位置づけることになりました。

キング牧師の題材は、主に1950~1960年代のできごとであり、中学生だけでなく、先生たちの多くも、その時代を体験しているわけではない。それを踏まえると、この題材は、歴史的な事実として人権問題を「知る」ことにフォーカスすることになるが、それでも十分価値のあるものと言える。そこで、読むための素材として残したい。

こう考えた背景には、キング牧師の題材自体の価値は高いけれども、その題材にアプローチするための導入教材を探すことや、生徒の興味や関心を喚起することが、時代の変化とともに難しくなっているという先生たちの感覚がありました。実際、これまで拝見した授業でも、例えば10年前であれば、多くのメディアが取り上げ、生徒も耳にしたことがある“Black Lives Matter”を導入として取り上げ、そこからキング牧師の『I Have a Dream』に繋げていくという方法が見られました。また数年前に、「新型コロナウイルスは中国が発生源と考えられる」という情報が世界中に広まった際、欧米諸国に滞在するアジア系の人々が暴行を受けるという問題が起こり、それを単元の導入として取り上げたという授業事例もありました。

このように、生徒にとって身近な題材を先生が用意し、授業の導入に用いることは理想的です。しかしながら、身近かつ取り上げる意味のある事例は、いつも存在しているわけではありません。そこで、今回の改訂では、キング牧師の『I Have a Dream』は、主単元を中心になる題材として据えるのではなく、そのできごとを歴史的な事実として知ることにフォーカスした、読むための素材という位置づけに変更することにしました。

一方で、3年Lesson 6に“Being Fair”というキング牧師につながる単元を新たに設定し、人権問題を学ぶ機会を提供しています。この単元では、Partの中で、左利きの人が使う道具の話や、食材にアレルギーがある人の話を聞いたり、読んだりして、最後のGoal ActivityでWhat is “Fairness?”というタイトルの英文を読みます。これらは、遠く離れた場所で起こったできごとではなく、何十年も前の話でもありません。中学生にとっては身近なことであり、公平・平等とは何かを考える機会となることが期待できます。

もちろん、身近であるがために、題材が扱いにくいと感じる先生もいるでしょう。教室には、左利きであることで心無いことを言われた生徒や、給食のメニューにアレルギー食材が入っていないか不安に感じている生徒がいるかもしれません。先生たちには、こうした生徒たちへの配慮をしていただくこととなりますが、**実際にある身近なことを英語で表現することで、意味(伝えたいこと)と言語(英語の表現)が結びつき、記憶に定着しやすくなると考えられるため、この新しい題材をぜひ有意義に使っていただけることを期待しています。**

新しいNEW CROWN の構成

令和7年度版NEW CROWN のもう一つの改訂のポイントは単元構成です。「練習」だけでなく、「活用」を促す活動を、単元の序盤から配置しました。外国語の習得方法はさまざまに考えられますが、PPP (Presentation - Practice - Production) で展開する指導を受けた場合、活用するために必要な言語材料をいったんしっかりと練習するという段階を経験します。外国語の習得に練習は大切ですが、「どの程度練習をすればよいか?」という疑問に対して、明確な答えを見出すことは困難です。その理由は、外国語は練習するだけでなく、活用することで身につくものだからです。したがって、練習しつつ、活用する段階（≒言語活動を行う段階）を早くから取り入れることで、練習と活用の相互作用によって、英語の習得を促進することが必要になります。今回の改訂では、練習と活用の段階を分けるのではなく、単元を通して、両者を同時進行的に行えるように設計しました。新しいNEW CROWN では、「まず使ってみる、そしてもっとうまくいくように練習する」とか、「習ったらすぐに使ってみる、使ってみてうまくいかなかったら練習する」というような、フレキシブルな学習スタイルを実現することができます。

「練習」と「活用」を同時進行的に行う 新しいNEW CROWNのレッスン構成



「まず使ってみる」を体現しているものの一つは、Partの冒頭に配置されたSmall Talkです。ここでは、新しい文法事項や語彙などを学ばなくても、それまでに学習した言語材料を使って取り組むことができるようなテーマが設定されています。Small Talk はその名の通り、規模が大きい活動ではないので、時間をかけて準備する必要のない、即興で話す活動となっています。即興で話すことが、あまり得意ではない生徒もいるかもしれませんが、それは逆に言えば、このSmall Talkが「もっと上手に話せるようになりたい」「話すために必要な知識や技能を身につけたい」と思うきっかけになるということです。

このきっかけ作りがひと段落したら、次は、新しい文法事項を学ぶScene 1のCheckとExerciseに進みます。ここでは、文法事項のルールに気づき、その文法事項を使った文を聞いたり、話したり、書いたりすることで、新しい知識及び技能を学びます。

知識及び技能を「生きて働く」ものにするためには、思考、判断、表現する中で活用することが必要です。新しい教科書では、この活用の機会を、単元末のGoal Activityの言語活動だけでなく、Partの段階から、Small Talk、Listen & Read、Think about Yourselfなどを設定することで、Partが知識及び技能を練習する場となるだけでなく、活用するための重要な位置づけにもなっています。

生徒が楽しめる教科書

ここまで少し堅い話が続いていますので、生徒の立場になって、楽しい教科書はどのようなものかをカジュアルに考えてみます。先生たちからよく聞く話の一つは、生徒たちは教科書の登場人物について、あれこれ想像を巡らしているということです。主要な人物たちは、3年間一緒に英語の勉強をするパートナー的な役割を担います。教科書紙面ではイラストで描かれていますが、二次元コード等から実写の動画が見られるものもあります。その際、イラストの人物と実写版の配役のモデルの類似点や相違点を楽しむ生徒もいるようです。

イラストにも実写にも共通して言えますが、英語を話す同世代のキャラクターに親近感を持ったり、懂れたりすることは、生徒の英語学習への意欲的な取り組みに繋がります。例えば、ダイアログを扱う場合は、ある程度音読ができるようになった後に、ダイアログの続きを考えて、スキットを演じる活動を行うことができます。その際、登場人物に対して愛着を持っていれば、生徒たちはこの活動に意欲的に取り組むでしょう。

新しいNEW CROWNは、キャラクターとの学びが活きるように、ストーリーを大切にしました。Partの左ページにScene 1、右ページにScene 2が配置され、それぞれストーリーが繋がっています。また、Part間でもストーリーが繋がっていて、登場人物たちが個性を発揮しながら、話が展開していきます。教科書を作る際には、キャラクターの出身地だけでなく、性格や趣味、家族構成などのプロフィールを決め、それらを教科書の随所にさりげなく組み込んであります。全ての情報が明示されているわけではありませんので、生徒たちと一緒に想像を膨らませながら味付けをし、キャラクターを活かした楽しい授業が行われることを期待しています。

生成AI時代の英語教育

最後にまた堅い話に戻りますが、昨今の教育を考える際に、2022年に公開されたChatGPTをはじめとする生成AIに触れないわけにはいきません。ChatGPTなどの生成AIは、英作文の課題をプロンプトとして入力すれば、内容を考え、指定の言語で即座に出力してくれます。こんなに便利な道具を生徒が使い始めると、学習にならないのではないかと考える先生も多いはずですが。実際に、文部科学省が作成した『生成AIの利用に関するガイドライン』では、中学生に対してはかなり限定的な使い方しか認めておらず、英語に関しては、英会話の相手として使うことしか推奨されていません。

新しいNEW CROWN では、生成AIを使うことを想定した活動は組み込まれていません。しかしながら、将来、生成AIを使うことになった際に必要なスキルを育成することは、生成AIを使わなくても可能です。まだ見えぬ遠い未来に、創造的かつ意欲的に、そして幸福に生きていける人間を育てる教育を、英語の授業を通して実践していくことが大切であると考えています。